

単元名 つなぐ言葉（東京書籍）

本時2 / 2時間

本時のねらい

育成を目指すプログラミング的思考

接続する語句の役割について理解して正しく使うことができる。（知・技）

一般化



複数の物事の関係や規則をまとめる。

Stage2

本時のねらいとプログラミング的思考との関連性

本時の学習では、プログラミング的思考の一般化の思考を取り入れ、同じ働きをする接続語で、文章の前後の関係をまとめる活動に取り組む。接続語句を順接・逆接・累加の3種類に整理することによって、文章のつながりと接続語句が関わり合っていることに気付かせることができ、本時のねらいを効果的に達成できる。

学習ツール

Viscuit

Scratch

スライド

スプレッドシート

無

プログラミング的思考に関する活動の流れ  
(展開を想定)

●教師の発問・指示

◇指導上の留意点

※学習ツールを使用する際の留意点

導入

1 空欄に合う接続語句を考え、それらの働きを理解する。

※授業スライドを拡大提示しながら授業を進める。  
※Google Classroom にリンクを貼ったり、二次元コードを表示したりすることにより、児童がアクセスできるようにしておく。

◇例文を3パターン提示し、後半の文が同じでも、前半の文によって接続語句が変わることに気付かせる。

①雨がふっていた。 [ ] かさを持って出かけた。

②外は晴れていた。 [ ] かさを持って出かけた。

③ながぐつをはいた。 [ ] かさを持って出かけた。

2 前後の文の関係によって、適切な接続語句が変わることを理解する。

●「それぞれ、どんなつなぐ言葉を入れるとよいですか。」

◇「予想どおり」（順接）、「予想と反対」（逆接）、「付け加え」（累加）の3つに分類できることに気付かせる。児童の言葉を取り入れて、分類の表現を変えてもよい。

展開

3 順接、逆接、累加を表す接続語句を表に分類する。

つけ加え <small>つぎはきく、なすたりするもの</small>	予想と反対 <small>ふつうに考えられるのは逆</small>	予想通り <small>ふつうに考えられるとおり</small>	
	だから しかし そして	さらには しかも	「い」から「い」まで 「い」から「い」まで
	いけれど いから		

●「文をつなぐ言葉を仲間分けしましょう。」

◇スライドに用意された選択肢を当てはまる欄に移動したり、自分で考えた接続語句を書き加えたりさせる。

◇自力解決の時間を設けた後、3~4人で考えを交流させ、新たな気付きを促す。

終末

4 後半の文章に合う前半の文章を考える。

◇後半の文章は同じだが接続語句が異なる文章について、前半の例文を考えさせ、接続語句への理解を深めることができるようにする。

◇前後の文章のつながりを考えて接続語句を選ぶことによって、より適切に考えを表現できるため、普段も意識して接続語句を使い分けようとする意欲を持たせる。